

事業所における自己評価総括表

事業所名	LITALICOジュニア香春口三萩野教室 児童発達支援
事業者向け自己評価表作成日	2026年2月28日（土）
自己評価総括の担当者	中野 直美 繪面 友太

	実施期間	有効回答数(回答者数)	有効回答数(対象者数)
保護者評価	2025年12月19日(金) - 2026年1月29日(木)	29	31
従業員評価	2025年12月19日(金) - 2026年1月29日(木)	3	12

各評価を受けて事業所内で分析した強みと弱み

事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること
<p>共感と寄り添いの支援： お子様の等身大の姿を受け入れ、深い愛情を持って関わることができています。</p> <p>「楽しい！」を生むプログラム（PGM）力： 「また来たい」と思わせる、お子様の主体性を引き出す工夫が随所に見られます。</p> <p>個にフォーカスした思考： 「この子にとって何が良いか」を真剣に考える土壌があります。</p> <p>徹底した安全管理： 安心して預けられる環境づくりが、教室運営の土台として機能しています。</p>	<p>ニーズに直結した計画作成： 「楽しい」だけで終わらせず、保護者様の願いや将来の自立（ニーズ）から逆算した、より精度の高い個別支援計画（IEP）の作成</p> <p>「言葉」で語る支援： 「なんとなく良い支援」ではなく、**「なぜこの活動をするのか」「どんな狙いでこの声掛けをしたのか」**を、スタッフ一人ひとりが自分自身の言葉で、保護者様へ論理的に伝えられる状態を目指します。</p>

過去の取り組みや課題の振り返り

工夫していることや意識的に行っている取組等	事業所として考えている課題の要因等
<p>「できた！」をチームの武器に： お子様の良かったことや成功体験を「点」で終わらせず、終礼やチャットで即座に全体共有しています。一人の気づきをチームの共通認識とすることで、担当が変わっても一貫した「次への活かし方」を実践できる体制を構築しています。</p> <p>行動・反応の徹底分析： お子様が見せた行動や反応の一つひとつを「なぜ起きたのか？」と多角的に分析しています。環境設定や声掛けの効果を検証し、根拠のある支援（エビデンスベース）を追求しています。</p> <p>外部の知見を積極的に吸収： 自教室に閉じこもらず、他教室の優れた事例を柔軟に取り入れ実践に繋げています。また、各種研修への参加を通じてスタッフ一人ひとりが学びを深め、常に支援のアップデートを図っています。</p>	<p>課題の要因： ニーズの深掘りが不十分</p> <p>「なぜ苦手なのか？」の追求： 単に「できない」と捉えるのではなく、感覚的な要因なのか、認知的なステップの問題なのか、背景にある理由（機能分析）をさらに深く探る必要があります。</p> <p>「どこまでできているか？」の明確化： 0か100かではなく、「20までは自力でできる」「50までは助けがあればできる」といった、現在地（スモールステップ）の把握をより緻密に行うことが、最適なプログラム（PGM）作成の鍵となります。</p>

さらなる充実と改善への取り組み

さらに充実を図るための取組等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
----------------	----------------------

単なる共有（フロー型）で終わらず、いつでも引き出せる「宝箱（ストック型）」にします。

具体策： チャットツール内に「#成功事例タグ」を作ったり、共有ファイルに**「〇〇が苦手だった子への対応集」**をスプレッドシート等で作成します。

「冰山モデル」で背景を可視化する
「できない」という表面的な行動（氷山の一角）に注目するのではなく、水面下にある「要因」をチームで推測する習慣を作ります。

具体策： ケース検討の際、ホワイトボードの真ん中に一本線を引き、上に「起きている行動」、下に「考えられる要因」を書き出します。